

## 令和5年度愛媛県立松山東高等学校 卒業式式辞

春の息吹が確かに感じられる今日の佳き日、令和5年度 愛媛県立松山東高等学校 卒業証書授与式を挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました御来賓の皆様をはじめ、保護者の皆様方に、厚くお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、御卒業、おめでとうございます。皆さんが本校に入学した頃は、コロナの影響を色濃く受ける日々でした。そこから始まった三年間の高校生活、さわやかな挨拶、はつらつとした学校行事の様子、そして、勉学や部活動に打ち込む皆さんの姿は、学校に、地域に、活力を与えてくれました。皆さんが、東高の伝統を受け継ぎながら、さらなる高みに向かって、若者らしく躍動してくれたことを、誇りに思います。

本校出身で、終戦後まもなく文部大臣となり、教育の民主化に努めた安倍能成（あべよししげ）氏は、「自（じ）なくして他（た）なく、他なくして自なし」という言葉を残しています。これは、これから社会へ飛び立つ学生に対し、自己の存在の確立と他者の存在の重要性を説いたものです。

今日、卒業される皆さんは、学校生活を通して、確固とした自分という存在を確立するとともに、他人を思いやる豊かな人間性を育んできました。いつも正門で見守ってくださっている安倍能成氏に恥じない成長を、皆さんは、この三年間で、成し遂げてきたのです。卒業後も、皆さんには、これまでに培った自己の力を十二分に生かし、果敢にチャレンジして困難を乗り越えてほしい、そして、他者への思いやりや感謝の気持ちを忘れずに、自分の未来だけでなく社会の未来をも、切り開いて行ってほしい、私は、社会のリーダーとなる人にこそ、広い視野と他者への思いやりの心が必要だ、と思っています。

皆さんは、コロナの制約の中で高校生活を送ってこられた、その困難を乗り越えてきたからこそ、達成感や充実感を味わうことができたし、仲間と一緒にいられることの喜びや、周りへの気遣い、思いやり、家族の大切さを、改めて認識することができました。それらは、皆、AIにはない人間らしい心です。その人間らしい心が皆さんの糧となり、先の見えない将来を照らしてくれるのです。どうか、東高で培った豊かな人間性をしっかりと発揮して、今後ますます自分自身を成長させていってください。

保護者の皆様、本日のお子様の御卒業、誠におめでとうございます。親の思いを詠んだ俵万智さんの短歌があります。「最後とは知らぬ最後が過ぎてゆくその連続と思う子育て」。保護者の皆様には、これまで、様々な御苦労や御心配があり、そして今、万感の思いでおられることと存じます。これまで、お子様を支えてこられました皆様に敬意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

卒業生の皆さん、改めて、卒業、おめでとう。いよいよ旅立ちです。これからの社会を担う皆さんの、希望に満ちた門出に、心からのエールを送ります。皆さんの更なる飛躍と御健康をお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月1日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史